

2010年ウルグアイ地方選挙

Local Elections and Change of Political Party System in Uruguay

内 田 みどり

Midori UCHIDA

(和歌山大学教育学部)

2010年11月2日受理

Abstract

James Brice said local autonomy is a school for democracy. But it is not certain that decentralization and democratization have positive correlation.

In Uruguay, leftist party coalition named Broad Front won in the election of governor of metropolis, Montevideo in 1989. They developed administrative ability at government of capital during 15 years, then, in 2004, the presidential candidate of Broad front won finally. And in the next year, Broad Front won in Montevideo and got seven departments where historically were firm bases of traditional parties, Blanco and Colorado. In the election of 2010, election of municipalities is installed as the third administrative level by the leadership of the Broad Front. Does Municipal election serve penetration of Broad Front for inland departments? Can Broad Front's governors can win again in 2010? This short article surveys local elections after the democratization in 1985 and the change of the political party system in Uruguay.

はじめに

「地方自治は民主主義の源泉であるだけでなく、学校である」(チャールズ・ブライス)といわれる。非ヨーロッパ世界の中では(国によって差はあるにせよ)比較的に選挙民主主義の伝統をもつラテンアメリカでは、21世紀に入ってから続々と左派政権が誕生しているが、遅野井茂雄と宇佐見耕一は左派台頭の要因のひとつとして地方分権化をあげ、地方自治の経験をつむことで基盤を築いて国政での与党となった政党として、ブラジルの労働者党とならんで本稿で考察するウルグアイの拡大戦線をあげている¹。

だが地方分権化と民主化の関係は必ずしも正の比例関係を描くとは限らない。アフリカの地方分権化と政治変容の関係について分析した岩田拓夫は、「分権化先進国」のブルキナファソやウガンダでは非民主主義的な体制下で地方分権化が進められた一方、「民主化先進国」のベナンでは地方分権化が足踏み状態であることを指摘している²。アルゼンチン、ブラジル、チリの権威主義体制下で行われた地方分権化を分析したケント・イトンは、チリのピノチェト政権下で行われた「財源移転を伴わず教育や医療にかんする責任だけ地方政府に負わせる分権化」について、中央政府の重要性を低下させることで民主化した暁に大統領選挙で左派が統領選挙に勝利した場合のダメージを小さくし

ようとしたのであって、民主化後は地方の政権が右派政党の基盤となってきた、と指摘している³。

ウルグアイでも、建国以来の二大政党であるコロラド党と国民党は、前者が都市部、後者が内陸部、というおおまかな勢力分布図を描いてきた。だが地方政治のレベルでは、1989年以降は首都モンテビデオの県知事選挙で第三勢力の拡大戦線が勝利し、以後常勝を続け、政党間関係に変化をもたらした。1989年にモンテビデオ県知事に当選したタバレ・バスケスは、2004年の大統領選挙で勝利⁴し、拡大戦線は国政においても政権与党となった。拡大戦線は2009年の大統領選挙でも勝利し、元ゲリラのホセ・ムヒカが後継大統領に就任した⁵。そして、バスケス政権の最後の段階で、県の下位に位置づけられるムニシピオ(Municipio、市)という制度を導入する法案が可決された。

新たな制度はウルグアイの政党間関係にどのような変化をもたらすのであろうか。ムニシピオは拡大戦線の地方への浸透の伝導ベルト役を果たすのか。それとも、地方に強い国民党の基盤強化につながるのか。本稿ではまず、民主化以降のウルグアイにおける地方選挙(県知事、県会選挙)のルールと選挙結果を振り返り、地方政治における政党間関係の変化について確認する。後半では、初のムニシピオ選挙が行われた2010年の地方選挙について考察する。

1. 地方選挙の「ゲームの規則」

ウルグアイではかつてはすべての選挙が同時に行われていた。だが、1997年発効の憲法改正によって、地方選挙は大統領・国会議員選挙(10月最終日曜)の翌年の5月第2日曜に行われる事になった。新大統領の就任式は3月1日なので、5月半ばはそろそろ新政権との「蜜月期間」が終わろうかという時期にあたる。選挙の単位は政党ないし政党連合(レマ)と、その下に派閥ないし政党(スプレマ)がある。派閥単位の行動が制度化されているのがウルグアイ政治の特色である。

県会レベルの選挙では、19県の知事、県議会議員(定数は各31)、セロ・ラルゴ県のリオ・ブランコ、アルティガス県のベリャ・ウニオン、マルドナド県のサン・カルロスの地方公選自治委員会(Junta Locales Autonomas y Electiva)委員と委員長(市長にあたる)、が選出される。有権者は18歳以上でウルグアイ国籍を有するもの。県知事の被選挙資格は30歳以上、出生により国籍を有する、もしくは国籍取得から7年以上たっていること、その県生まれ、もしくは3年以上居住していること(憲法267条)で、一回のみ再選可能であるが、再選を目指すには選挙の最低3ヶ月前には辞任していなければならない(憲法266条)。県知事候補は大統領選挙と異なり、1レマ1人に絞る必要はない。県議会議員の被選挙資格は18歳以上、出生により国籍を有する、もしくは国籍取得より3年以上たっていること、その県生まれ、もしくは3年以上居住していること(憲法264条)である。定数は31である⁶。

2. 民主化以後の地方選挙における政党間関係の変遷

ウルグアイでは首都のモンテビデオ県に人口の約半数が居住する。建国以来、コロラド党と国民党という二大政党が政治的アリーナの中心であり、両者は「都市部はコロラド党、内陸部は国民党」という勢力図を描いてきた。そこに伝統政党からの脱党組やキリスト教民主党などを糾合した拡大戦線が、軍政以前の1971年に初めて選挙に参加し、首都では3割の票を得た(内陸部では約1割にとどまった)。1973年からの軍事政権時代をはさんで、1985年の民主化以降、拡大戦線は1989年にモンテビデオ県知事選で勝利し、以降、知事の座を守り続けてきたのみならず、2000年、2005年の選挙では拡大戦線の得票が5割を超え、首都における第一党としての地位を確立した。

一方、歴史的に単一優位を誇ってきたコロラド党は、2005年の大統領選挙で大敗して、国政選挙では「社会民主主義勢力」としてのポジションを拡大戦線に奪われた、とされる。だが地方選挙では、すでに2000年から、セロ・ラルゴ、サン・ホセ、タクアレンボ県でコロラド党から国民党に票が流れていることが確認できる。トレインタ・イ・トレスでも2000年から少しずつ、

コロラド党から国民党に票が流れている。さらに2005年にはそれ以外の県でもコロラド党の支持者が国民党と拡大戦線に分解した⁷。これにより拡大戦線は初めてモンテビデオ以外の県で、しかもいっきに中央部のカネロネス、フロリダ、西部のサルト、バイサンドゥ、東部のマルドナド、ロチャ、トレインタ・イ・トレスの7県で知事を当選させたのである。この結果、拡大戦線は8つの県で行政の頂点にたち、人口の70%が拡大戦線の為政下におかれることとなった⁸。

3. 2010年：分権化元年

2010年の選挙では新しいルールが導入された。住民参加と分権化を促進するため、法令18,567号の制定によって第3の行政レベルとして市(ムニシピオ)が誕生したのである。都市部および都市近郊にある住民2千人以上の行政区が1ムニシピオとなる。ただし県庁所在地にムニシピオを設置する場合は県知事のイシニアチブによって県議会で承認されねばならない(第1条)。ムニシピオは比例制で選ばれる5人で構成され(第9条)、被選挙資格は県議員と同様である(第10条)。最多得票のレマの中で最多得票である候補者リストのトップが市長になる(第11条)。残りのポストは比例制で配分される(第9条)。住民5千人の居住区には2010年からムニシピオを設置する。残りは2015年までに設置する。2010年にムニシピオが2つに満たない県は、県庁所在地とは別に最低2つムニシピオを設置できるように居住区の数を減らす(第24条・経過措置)。なお市の議員は名誉職である(第11条)。

法案作成の思想的支柱であるエンリケ・ルビオ(Enrique Rubio)元予算企画庁長官や社会党の(Galgano)ガルガノは、分権化法案をバスケス政権における最も重要な民主化改革と位置づける⁹。一方コロラド党は、分権化法案は新たなポストを作り出すことで支出増と官僚制化を招くだけである上、憲法違反であると批判した¹⁰。国民党は意見が割れた。たとえばラニャガ(Larrañaga)派であるアリアンサ・ナショナル(Alianza Nacional, AN)のダ・ロサ(Da Rosa)元タクアレンボ県知事は「国民党は伝統的に分権化を旗印にしてきた」として分権化を国家改革・近代化の頂点であると高く評価した¹¹が、ガジナル(Gallinal)は「これは官僚化法案だ」と切り捨てた¹²。コロラド党、独立党、そして国民党の一部は違憲訴訟を起こす構えであったが¹³、分権化法案は国民党のラニャガ派の賛成で可決された¹⁴。これによって現行の3つの特別区に加え、新たに83の市長職が直接選挙で選ばれることになったのである。

レプブリカ紙によれば、初めての市長・市議会選挙に参加することになる有権者は全体の69.5%(1,785,904人)に達したが、モンテビデオとカネロネスでは有権者の100%、マルドナドでも99%なのに対し、

リオ・ネグロは37.7%、サン・ホセ33%、ソリアノ31%、アルティガス30%、タクアレンボ24%と低く、フローレスに至っては4%という低率で、地域によって市長・市議会議員選挙に参加できる県民の比率/市制の実施率が大きく異なることになった¹⁵。

4. 2010年地方選挙のあらましと結果

2010年の地方選挙では、19の知事職に対し拡大戦線から41人が立候補し、モンテビデオ、カネロネス、ロチャ、ラバリェッハの4県では統一候補を立てた。国民党は多くの場合、ララニャガ派とラカジェ(Lacalle)派のウニダード・ナショナル(Unidad Nacional, UNA)が別々に候補を立てるため、統一候補はフローレスのみとなり、総計44人。コロラド党も統一候補はサン・ホセのみで総計41人を立てた。ほか、独立党が12の県に各1名、人民会議が15の県に各1名の候補を立てた¹⁶。拡大戦線はモンテビデオ以外の7県で現職再選を目指し、国民党もアルティガス、コロニア、フローレス、リオ・ネグロ、ソリアノ、タクアレンボで現職再選を目指した。女性候補も17人いる¹⁷。注目のモンテビデオ県では拡大戦線と国民党のラカジェ派が女性候補を立てた。拡大戦線のアナ・オリベラ(Ana Olivera)候補(共産党)はモンテビデオ県庁の分権化局や西部局長、副知事などのキャリアをもつ¹⁸。一方、国民党のアナ・リア・ピニェルア(Ana Lía Piñeyrua)候補はコロラド党のサンギネットィ大統領時代の伝統政党の連立政権で労働・社会保障大臣を務めていた。また、89のムニシピオ(市)長選挙には拡大戦線が276人、国民党が400人、コロラド党が313人の候補を立てた。他に独立党(Patrindo Independiente)と人民会議(Asemblea Popular)が一部の県で候補を立てており、候補者総数は1,065人に上った。ムニシピオの数が最も多いのはカネロネス県で、ここには拡大戦線が88人、国民党が117人、コロラド党が86人、独立党が16人、人民会議が13人の候補を立てている¹⁹。

世論調査会社CIFRAの共同代表で、ウルグアイの派閥政治に詳しいルイス・エドゥワルド・ゴンザレス(Luis Eduardo González)は、3月のはじめの時点のモンテビデオ知事選挙に関する世論調査で49%が拡大戦線のオリベラ候補を支持しているものの、20%が態度未決定という結果から、拡大戦線はよほどひどい候補を立てない限り知事の座は守るが、前回より得票率を低下させるだろう、と予測した²⁰。世論調査会社FACTUMのオスカル・ボティネリ(Oscar A. Bottinelli)の直前分析でも拡大戦線は首都で勝利するが得票率は2005年の地方選や2009年の大統領選挙より下がるだろうといわれた。またボティネリは、拡大戦線が知事の座を保有している8県のうち、もっとも接戦なのはトレインタ・イ・トレス県で、逆に現在は国民党だが拡大戦線が追い上げているのはアルティガス

県、拡大戦線は最悪でも7県で勝利するとみた²¹。

選挙の結果は拡大戦線に厳しいものだった。全国での得票率は前回の48.57%から約6%減の42.36%に低下した。一方で国民党は29.91%から30.90%と微増に過ぎず、コロラド党は16.79%から15.01%と僅かに得票率を減らしている。かわって増えたのが白票で、一部ないし全部が白票であるものは前回の2.48%から7.58%に増えている。とくにモンテビデオでは一部ないし全部が白票というのが9.7%に達している。無効票も全国で2.64%、モンテビデオでは4.06%もある。また拡大戦線は、トレインタ・イ・トレス県で49.71%対40.76%の差で国民党に破れ、パイサンドゥ県では43.94%対42.24%、フロリダ県でも42.24%対41.74%の僅差で国民党に敗れて知事の座を失い、モンテビデオ(45.90%)、カネロネス(52.49%)という大都市圏とマルドナド(47.97%)、ロチャ(52.48%)で知事の座を維持するにとどまった。ただしアルティガス県で史上初めて勝利(44.74%)したので、合計5県を押さえたことになる。国民党は12の県で勝利し、コロラド党は前回唯一確保したりベラを維持したことに加え、サルト県で41.93%対40.33%の僅差で拡大戦線から知事の座を奪還した²²。

市長選挙の結果はどうか。モンテビデオとロチャでは拡大戦線が市長職を独占したものの、全国でみると国民党が42・コロラド党6の合計が拡大戦線の41を上回る結果となった。国民党は特に市の数が少ない県で勝利したケースが多い²³。初めての選挙の結果では、市長職の創出は必ずしも拡大戦線の勢力拡大にはつなげていない。ただし国民党は、先の大統領選挙の党内選挙や分権化法案の審議をみてもわかるとおり、ラカジェ派とララニャガ派に政策距離があり、ラカジェ派がネオリベラルなのに対しララニャガ派は拡大戦線の穏健派に近い。そこで国民党の市長を派閥別にカウントすると、ラカジェ派が22人、ララニャガ派が20人と拮抗している²⁴。

白票・無効票の増加は何を意味するのか。ボティネリはこれを国民からの政党に対する「政治的自閉からさめよ」という声なき声とみなし、「モンテビデオでは拡大戦線への、カネロネスでは拡大戦線と国民党双方への批判・抗議の表れ」と指摘する²⁵。首都で拡大戦線への批判が広がった原因として、現職知事が交通問題を解決できなかったことに加えて候補者選びのもたつきが指摘されている²⁶。世論調査会社Equipos Moriの1月時点の調査では、「拡大戦線内で誰を支持するか」という問いに、51%が社会党のマルティネス(Daniel Martínez)元産業大臣を支持、現職のエルリッヒ(Ricardo Ehrlich)は4%、オリベラは2%に過ぎなかった²⁷。だが3月1日に就任予定のムヒカ新大統領は、「モンテビデオ県知事はこれまで候補を出してこなかった党派から出すべきだ」として共産党のオリベラ

を推したのである²⁸。最終的には県の党大会で候補が選定されたが、マルティネスが当初は得票の60%を得ていたため、社会党は最終的にはオリベラを支持したものの「マルティネスへの拒否投票があった」と非難したのである²⁹。拡大戦線は会派内の団結を示すためにコンセンサスによって統一候補を選出することを重視する傾向があるが、これはコンセンサスが得られるまでの対立があからさまであると逆効果になりかねないという例であろう。

おわりに

地方選挙から約2週間後、拡大戦線の一翼を担う社会党の中央委員会は「左翼だけが、分権化を具体化する意思をもっていた」と自賛した³⁰が、分権化元年の選挙結果はすでにみたように拡大戦線に厳しいものだった。市長選では国民党に僅差ではあるが後塵を拝し、当選者数は伝統政党の合計を下回った。新たに誕生した市は、憲法以下の法の執行、公務員・予算の管理、条例違反への罰金等の権限をもち(法令18567号第12条)、公共事業の実行・維持を担い、地域計画の構想を練り、国・県の権限と競合しない範囲で公衆衛生や環境保護の予防等の任務を負う(第13条)。そのための財源は県と、国の基金から支出される(第16条)。中央—地方(県)の関係に、もう一つ、中央政府—県—市、中央政府—県—市の関係が加わる。ネオリベラルなラカジェ派首長—拡大戦線の首長はさまざまなレベルでどのような関係を構築するのか、政府間関係が注目される。

2010年9月。拡大戦線も国民党も、2009年6月の大統領選挙内選挙に始まった一連の選挙を全国大会で振り返った。拡大戦線の大会では、党内選挙への参加者減少や、大統領選挙と同時に行われた2つの国民投票での敗北、地方選挙での後退という結果を踏まえ、若い世代の参加と登用や有権者とのコミュニケーションが課題であるという反省の声が上がった³¹。拡大戦線

後退の一方で、モンテビデオ県では知事・市長ポストが拡大戦線に独占されたことにみるように、拡大戦線=都市部、国民党=内陸部の図式は強まったかのようである。国民党の全国大会ではこの点に警鐘が鳴らされた。ララニャガ派のガンディニ(Jorge Gandini)は言う。「もし人々が我々を内陸の党と見なしつづけるのなら、我々は勝てない。我々がいくら民衆のための党だと言っても、人々がそう見なさなければ我々は勝てない」³²。

他方、拡大戦線は内陸部で伝統政党が連携して拡大戦線の伸張を阻む、二大政党の連合対拡大戦線という二大ブロック化の傾向がみられる³³、とanyi、これが首都に波及することを警戒している。だが二大政党の連合なる現象は、もともと(国民党と同じように)派閥間で政策距離があるコロラド党の支持者が左右に分解していった結果なのではないか。県知事ポストを一つ挽回したコロラド党は他の党に先駆けて党リーダーが世代交代し、新たなリーダーのボルダベリ(Pedro Bordaberry)は守旧派のボスたちや国民党と距離を置いている³⁴。国政選挙では非ネオリベラルを選択したが、地方選挙では拡大戦線が左派過ぎると考えた有権者はコロラド党支持に戻ってきたが、フロリダ県のようにさらにコロラド党から国民党と拡大戦線に票が流れたところもある。

ウルグアイは、政治的アリーナの中心に政党が存在しつづけて、政党システムが溶解を免れているという点で、隣国のアルゼンチンやアンデス諸国とは違うが、政党間の勢力図については変化の途上にある。ウルグアイの政党システムが、三つ巴から伝統二大政党対拡大戦線、あるいは国民党対拡大戦線に変化したのかを判断するには、そして、今回アルティガス県知事選挙で勝利を取めた拡大戦線が(国民党とは逆に)内陸部に浸透していけるのかどうかを判断するには、少なくとも次の選挙の季節を待たねばなるまい。

表1 首都における主要3政党の得票の推移

	拡大戦線	コロラド党	国民党	白票	無効票	投票総数
1984年	297,264 (33.08%)	312,415 (34.77%)	234,535 (26.10%)	18,838	6,998	898,448
1989	327,515 (34.60%)	222,470 (23.50%)	221,384 (23.39%)	47,066	8,207	946,395
1994	402,772 (42.34%)	238,224 (25.04%)	184,779 (19.42%)	45,384	9,059	951,092
2000	517,089 (56.35%)	249,411 (27.18%)	104,038 (11.33%)	29,801		917,499
2005	515,869 (58.47%)	228,320 (27.01%)	87,757 (9.94%)	22,872	11,917	882,230
2010	405,601 (45.90%)	159,976 (18.10%)	174,917 (18.10%)	95,619	35,951	883,673

出典：CorteElectral, Estadísticas, EleccionMunicipal, 1984,1989,1994,2000,2005,2010より筆者作成。

表2 県知事選挙の結果

県	1984年	1989年	1994年	2000年	2005年	2010年
モンテビデオ	PC	FA	FA	FA	FA	FA
カネロネス	PC	PN	PC	PC	FA	FA
マルドナド	PC	PN	PN	PN	FA	FA
ロチャ	PC	PN	PC	PN	FA	FA
トレインタ・イ・トレス	PN	PN	PN	PN	FA	PN
セロ・ラルゴ	PN	PN	PN	PN	PN	PN
リベラ	PC	PN	PC	PC	PC	PC
アルティガス	PC	PC	PC	PC	PN	FA
サルト	PC	PN	PC	PC	FA	PC
パイサンドゥ	PC	PN	PN	PN	FA	PN
リオ・ネグロ	PC	PC	PC	PC	PN	PN
ソリアノ	PC	PN	PN	PN	PN	PN
コロニア	PN	PN	PN	PN	PN	PN
サン・ホセ	PN	PN	PN	PN	PN	PN
フローレス	PN	PN	PN	PN	PN	PN
フロリダ	PC	PN	PC	PN	FA	PN
デュラスノ	PN	PN	PN	PN	PN	PN
ラバリエッハ	PC	PN	PN	PN	PN	PN
タクワレンボ	PN	PN	PN	PN	PN	PN

Corte Electoral, Estadísticas, Elección Municipal, 1984,1989,1994,2000,2005,2010より筆者作成。

表3 県別主要3政党の得票数推移(モンテビデオを除く)

カネロネス県

	拡大戦線	コロラド党	国民党	投票総数
1984年	30,820	88,524	71,550	202,116
1989	35,189	70,532	85,228	223,320
1994	65,435	81,627	72,325	252,792
2000	105,191	119,605	34,916	272,268
2005	180,659	18,743	78,081	295,172
2010	164,849	29,920	71,666	314,065

トレインタ・イ・トレス県

	拡大戦線	コロラド党	国民党	投票総数
1984年	1,547	12,674	14,713	30,198
1989	1,364	11,653	16,374	32,005
1994	3,574	11,787	14,174	33,077
2000	4,574	9,175	18,630	33,407
2005	15,086	3,012	14,690	33,758
2010	14,677	1,919	17,902	36,012

マルドナド県

	拡大戦線	コロラド党	国民党	投票総数
1984年	6,644	26,995	22,941	60,550
1989	7,304	22,779	27,103	67,608
1994	12,587	24,360	33,171	79,518
2000	29,116	22,067	32,322	86,614
2005	45,585	2,788	43,877	96,306
2010	50,955	13,443	32,415	106,216

セロ・ラルゴ県

	拡大戦線	コロラド党	国民党	投票総数
1984年	3,079	19,644	25,847	50,573
1989	2,943	15,063	32,128	54,648
1994	7,035	16,985	28,220	54,251
2000	10,623	6,899	38,138	57,450
2005	20,158	3,684	34,234	59,446
2010	21,484	4,599	29,876	60,635

ロチャ県

	拡大戦線	コロラド党	国民党	投票総数
1984年	2,760	21,995	16,985	43,473
1989	2,641	17,837	22,443	47,462
1994	5,776	19,526	18,591	49,189
2000	7,858	18,301	22,140	50,158
2005	25,080	4,557	18,852	50,816
2010	27,123	4,009	15,559	51,682

リベラ県

	拡大戦線	コロラド党	国民党	投票総数
1984年	3,519	27,428	23,473	56,677
1989	3,209	26,481	30,178	63,745
1994	5,546	31,540	24,926	66,459
2000	7,553	30,650	26,316	67,064
2005	14,074	34,141	17,918	68,221
2010	15,232	34,666	17,698	71,516

アルティガス県

	拡大戦線	コロラド党	国民党	投票総数
1984年	2,262	20,688	14,159	38,654
1989	2,131	19,512	18,973	44,842
1994	5,786	19,536	18,679	47,175
2000	7,128	27,132	12,131	47,484
2005	17,164	10,897	19,346	48,622
2010	22,578	4,784	20,091	50,467

サルト県

	拡大戦線	コロラド党	国民党	投票総数
1984年	6,692	33,452	24,567	67,630
1989	5,679	24,940	32,857	71,317
1994	13,982	28,343	25,009	74,769
2000	15,185	30,443	26,525	75,537
2005	30,685	16,687	28,541	78,553
2010	33,693	35,027	10,401	83,540

パイサントゥ県

	拡大戦線	コロラド党	国民党	投票総数
1984年	9,042	26,234	25,609	64,535
1989	6,788	21,796	32,122	69,377
1994	15,475	20,227	28,100	72,065
2000	26,543	13,296	30,664	72,944
2005	35,385	4,469	32,329	74,619
2010	32,831	5,957	34,152	77,722

リオ・ネグロ県

	拡大戦線	コロラド党	国民党	投票総数
1984年	2,755	15,624	10,345	29,712
1989	3,136	13,621	11,007	31,549
1994	5,262	12,644	11,551	32,638
2000	7,208	13,463	11,094	33,658
2005	13,786	2,374	17,097	34,294
2010	13,489	5,686	15,546	36,689

ソリアノ県

	拡大戦線	コロラド党	国民党	投票総数
1984年	5,572	23,800	23,513	55,414
1989	5,276	19,211	26,055	57,196
1994	11,010	19,817	21,043	58,103
2000	13,058	20,605	22,496	57,906
2005	20,290	5,495	30,773	59,115
2010	19,558	3,726	33,033	61,324

コロニア県

	拡大戦線	コロラド党	国民党	投票総数
1984年	9,229	33,025	33,293	78,922
1989	8,970	25,954	39,577	82,576
1994	15,610	29,205	29,816	82,835
2000	13,687	30,625	34,483	83,702
2005	28,873	6,669	47,309	86,001
2010	27,316	8,983	45,751	89,378

サン・ホセ県

	拡大戦線	コロラド党	国民党	投票総数
1984年	5,866	19,360	25,630	56,744
1989	5,704	14,310	30,956	58,936
1994	11,302	16,531	25,119	59,278
2000	12,767	3,934	45,296	64,172
2005	22,358	1,874	39,591	66,512
2010	22,690	2,729	39,109	69,998

フローレス県

	拡大戦線	コロラド党	国民党	投票総数
1984年	770	6,679	8,741	17,189
1989	1,291	5,233	9,386	17,831
1994	2,080	5,599	8,540	18,287
2000	1,386	1,949	14,529	18,368
2005	3,324	1,315	13,611	18,673
2010	4,530	1,973	11,479	19,268

フロリダ県

	拡大戦線	コロラド党	国民党	投票総数
1984年	3,960	20,215	18,411	44,538
1989	4,185	15,068	22,248	46,530
1994	7,962	17,484	16,958	47,823
2000	10,457	17,520	18,561	48,303
2005	20,642	7,171	20,270	49,717
2010	20,916	5,152	21,168	50,113

デュラスノ県

	拡大戦線	コロラド党	国民党	投票総数
1984年	1,751	13,426	18,348	35,810
1989	1,923	10,367	21,384	36,837
1994	3,896	11,042	19,022	38,023
2000	4,557	12,430	19,714	38,353
2005	12,147	2,977	22,749	39,516
2010	10,939	2,663	25,294	41,473

ラバリエッハ県

	拡大戦線	コロラド党	国民党	投票総数
1984年	2,231	20,557	20,148	45,010
1989	2,208	16,581	22,079	45,825
1994	4,552	15,502	20,104	46,264
2000	5,254	14,481	23,202	44,938
2005	9,112	2,966	30,902	44,815
2010	14,568	3,903	24,068	45,467

タクアレンボ県

	拡大戦線	コロラド党	国民党	投票総数
1984年	4,166	22,870	24,986	54,738
1989	3,590	20,155	29,687	58,356
1994	7,143	18,113	29,087	60,366
2000	8,609	8,221	42,676	61,059
2005	13,690	2,805	45,093	63,146
2010	15,266	3,370	44,197	65,713

出典：CorteElectoral, Estadísticas, Eleccion Municipal, 1984,1989,1994,2000,2005,2010より筆者作成。

表4 2010年の市長選挙

	拡大戦線	コロラド党	国民党
モンテビデオ(8)*	8	0	0
カネロネス(29)	18	2	9
マルドナド(8)	3	0	5
ロチャ(4)	4	0	0
トレインタ・イ・トレス(2)	0	0	2
セロ・ラルゴ(2)	0	1	1
リベラ(3)	0	1	2
アルティガス(3)	1	0	2
サルト(6)	4	1	1
パイサンドゥ(3)	0	0	3
リオ・ネグロ(2)	1	0	1
ソリアノ(2)	0	0	2
コロニア(6)	1	0	5
サン・ホセ(2)	1	0	1
フローレス(1)	0	0	1
フロリダ(2)	0	1	1
デュラスノ(2)	0	0	2
ラバリエッハ(2)	0	0	2
タクアレンボ(2)	0	0	2
合計	41	6	42

* ()はムニシピオの数

出典:Corte Electoral, Estadísticas, Eleccion Municipal 2010

注

- 1 遅野井茂雄・宇佐見耕一編『21世紀ラテンアメリカの左派政権：虚像と実像』2008年、アジア経済研究所、16-17頁。
- 2 岩田拓夫『アフリカの地方分権化と政治変容』晃洋書房、2010年、10-11頁。
- 3 Kent Eaton, "Decentralization's Nondemocratic Roots: Authoritarianism and Subnational Reform in Latin America", *Latin American Politics and Society*, Vol.48, No.1, 2006, pp.
- 4 2004年大統領選については、佐藤美季「ウルグアイにおける左派政権誕生：脱ネオリベラルを目指すバスケス政権」『ラテンアメリカ・レポート』第22巻1号(2005年)を参照されたい。
- 5 内田みどり「2期目に入ったウルグアイ左派政権：2009年大統領・国政選挙の経緯」『ラテンアメリカ・レポート』第27巻1号(2010年)参照。
- 6 現行規則では、16が最多得票の会派(イコール県知事の所属会派)に割り当てられ、さらにそのなかで比例制によりスプレマないしリストに配分される。残りの15議席は比例制により他のレマに配分される。Jose Garchitorena, *Manual práctico de derecho electoral uruguayo*, Fundación de Cultura Universitaria, Segunda Edición, 2009, p.78.

- 7 Corte Electoral, Estadísticas, Eleccion Municipal 1984, 1989, 1994, 2000, 2005
- 8 サルトとカネロネスはコロラド党から、マルドナド、ロチャ、トレインタ・イ・トレス、パイサンドゥ、フロリダは国民党から奪取した(表2参照)。 *Latin American Brazil & Southern Cone Report*, May 2005, p.6.
- 9 *La República*, 03/09/2009, 04/09/2009.
- 10 *La República*, 03/09/2009, 05/01/2010.
- 11 *La República*, 03/09/2009.
- 12 *La República*, 28/01/2010.
- 13 *La República*, 05/01/2010, 28/01/2010, 04/02/2010.
- 14 *La República*, 04/02/2010, 05/02/2010.
- 15 *La República*, 08/05/2010.
- 16 Corte Electoral, Estadísticas, Elecciones Departamentales y Municipales, 2010.
- 17 *La República*, 13/02/2010.
- 18 *La República*, 30/01/2010.
- 19 *La República*, 08/05/2010.
- 20 *La República*, 10/03/2010.
- 21 En Radio El Espectador, Análisis Político de Oscar A. Bottinelli, *Una visión panorámica de competencia municipal en los 19 departamentos*, 30/04/2010.
- 22 Corte Electoral, Estadísticas, Elecciones Departamentales 2005, Elecciones Departamentales y Municipales 2010.
- 23 Corte Electoral, Estadísticas, Elecciones Departamentales y Municipales 2010.
- 24 *La República*, 30/05/2010.
- 25 En Radio El Espectador, Análisis Político de Oscar A. Bottinelli, *9 de mayo: se desató una tempestad cuando se pronosticaba calma* 14/05/2010
- 26 *Latin American Weekly Report*, 13/ 05/2010 p.11.
- 27 *La República*, 29/01/2010.
- 28 *La República*, 23/01/2010. 初代のバスケスは社会党、2代・3代のアラナ(Mariano Arana)はヴェルティエンテ・アルティギスタ(Vertiente Artiguista)、エルリッヒはムヒカと同じ人民参加運動(MPP、元ツバマロス)である。
- 29 *La República* 30/01/2010.
- 30 *La República*, 24/05/2010.
- 31 *La República*, 12/09/2010, 13/09/2010
- 32 *La República*, 19/09/2010
- 33 *La República*, 24/05/2010
- 34 国民党の大会では2009年の大統領選挙の決選投票で、ボルダベリが国民党候補を明確に支持しなかったことが断罪されたという。 *La República*, 21/09/2010

参考サイト

- ウルグアイ選挙裁判所 <http://www.corteelectoral.gub.uy/>
 レプブリカ紙 <http://www.larepublica.com.uy/>
 ラジオ・エスペクトール <http://www.espectador.com/>